

感情認知トレーニングVR



FACE DUO

User's
Voice
vol.15

未来の教室・未来の職場を創り出す

特別支援学校徳島県立みなと高等学園での取組



徳島県立みなと高等学園

徳島県立みなと高等学園について

本学は、発達障がいのある生徒を対象として、社会的、職業的自立に向けた教育を行う特別支援学校として2012年（平成24年）4月に開校しました。設立の目的の一つに、県内の高等学校に在籍する発達障がいや学びに困難さを抱えている生徒に対する支援を行うことがあります。



安崎 輝彦 校長

FACEDUOを採用するきっかけ

高校時代にデジタル・理数分野の教育を重視し、文理横断的・探究的・実践的な学びを強化することで、未来のデジタル人材を育成することを目的とした「高等学校DX加速化推進事業」(DXハイスクール)の指定校に昨年度選ばれました。取組のテーマにしてきた「未来の教室・未来の職場を創り出す」というのは、本来誰でも多様な学び方をしていることを基本にしています。このテーマで実現したいのは、画一的な指導の下での学習ではなく、障がいのある子もない子も多様な学び方が認められ、苦手とすることをICTで補いながら主体的に学んでいくという社会モデルを実現することにあります。今回FACEDUOの感情認知トレーニングを利用することにより、生徒自身の学習上生活上の困難さに対して学習の場を設けることができました。VRゴーグルを活用した学習プログラムは、生徒たちにもわかりやすく、教員にとっても客観的な判断基準を得ることができました。本校のような特別支援学校の生徒だけではなく高等学校に在籍する学習上生活上の困難さを抱える生徒にとっても有効だと感じました。

活用事例

授業の中で感情認知トレーニングの理解度チェックを活用しました。理解度チェックは表情18クイズ(6感情×3回)と、声・仕草18クイズ(6感情×3回)で、学習者の苦手な感情を確認し、一度に複数の表情、声・仕草の理解を深められます。



活用してみて

教員側は、VRに対してすぐに受け入れてもらえるか不安な部分もありましたが、生徒はVRに対して抵抗感がなく、すぐにプログラムに馴染んでもらえました。初めは、基礎的な感情についても「理解や読み取りが難しい」との反応もありましたが、繰り返し実施することで徐々に理解度が進みました。

教員側のメリットとして、生徒の感情の読み取りの困難さを客観的な基準において理解できることが挙げられます。また、読み取りが難しい生徒の中でも、相手を観察できていないからなのか観察できているもののインプットが困難なのか等の仮説が立てられます。

この取組は、発達障がいのある生徒が社会的、職業的に自立するための重要なステップとなったと考えています。

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!

本システムは医療機器ではありません。本システムはコミュニケーションスキルトレーニングを目的としたVR支援プログラムです。

2025年4月作成
FD2504017